

議案第47号
専決第11号を承認

小松市介護保険条例の一部を改正する条例

消費税率改定に伴い市民税非課税世帯の介護保険料(年額)を軽減します。

保険料段階	対象となる人	2019年度(令和元年度) の保険料	
第1段階	・生活保護を受給している人。市民税世帯非課税で老齢福祉年金を受給している人 ・市民税世帯非課税で、年金以外の合計所得金額と課税年金収入額の合計が80万円以下の人	年額28,300円 (ひと月あたり2,358円)	← 年額34,000円 (ひと月あたり2,833円)
第2段階	・市民税世帯非課税で、年金以外の合計所得金額と課税年金収入額の合計が80万円を超え120万円以下の人	年額45,300円 (ひと月あたり3,775円)	← 年額52,900円 (ひと月あたり4,408円)
第3段階	・市民税世帯非課税で、年金以外の合計所得金額と課税年金収入額の合計が120万円を超える人	年額54,800円 (ひと月あたり4,566円)	← 年額56,700円 (ひと月あたり4,725円)

議案ってなに？

議案とは、議会の意思決定(=「議決」といいます)を必要とする市の重要な案件のことをいいます。市の基本構想や条例の制定・改正、予算、決算など、提出された議案はすべて議会でチェックしたのち、議決します。市長提出議案と議員提出議案があります。

基本構想	小松市をこんなまちにしていきます。 □□や△△の整備を進めていきます。
予算	□□と△△の整備を進めるので〇〇億円の予算が必要となります。
決算	□□と△△の整備に〇億〇千〇百〇円使い、進捗率は〇%になりました。
条例	小松市の理念を掲げたり、市のルールや規制を定めます。



豆辞典

質疑ってなに？ 質問って？

議案に対して内容や不明な点など聞くことを「質疑」といいます。
これに対し、議案以外の市政全般についても自由に聞くことができ、これを「質問」といいます。

このように、議案は一つひとつ議会で話し合わせ、市政へとつながっています。皆さんの身近な問題も、議案として提出されているはず。小松市議会ホームページでチェックしてみてください。

6月定例会

一般質問

15人が
質問しました。

一括質問

通告したすべての質問をまとめて行う方式。質問時間は、
質問と答弁を合わせて50分以内。質問回数は3回まで。

※質問順に掲載しています。

質問者	掲載ページ	質問事項
竹田 良平 議員	7ページ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 住民の移動手段の確保について ▶ 若者の声を活かしたまちづくりについて
岡山 晃宏 議員	8ページ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 粟津温泉の活性化 ▶ ご高齢の方が元気に安心して暮らせるまちづくりへ
東 浩一 議員	8ページ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 松東みどり学園と地域活性化 ▶ 農林・林業のスマート化 ▶ 小松市の日本遺産について
吉田 寛治 議員	9ページ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 小松のにぎわい創出について
木下 裕介 議員	9ページ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 高齢者の安全運転支援について ▶ 幼児教育保育の無償化について ▶ 市議会議員選挙について ▶ 子宮頸がん検診について
片山瞬次郎 議員	10ページ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 幼児教育・保育料の無償化について ▶ 食品ロス削減について ▶ 家庭ごみの減量化への対策は ▶ 「老後の安心のための」相談窓口の充実を
二木 攻 議員	10ページ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 小学校三・四年生の英語教育について
円地 仁志 議員	11ページ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「安宅」の魅力アップの進め方 ▶ 梯川河口導流堤の改修について ▶ プロスポーツを生かしたにぎわいづくり
宮川 吉男 議員	11ページ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 小松お旅まつり関係について ▶ 小松市水防計画について ▶ 東京オリンピック・パラリンピック関係について
橋本 米子 議員	12ページ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 消費税増税による幼児教育・保育の無償化について
杉林 憲治 議員	12ページ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 人口減少・少子高齢化の対策 ▶ 子育て支援、子供の貧困対策 ▶ 中高年の引きこもり対策 ▶ 多発する高齢者の交通事故

一問一答

通告の項目順に質問を行う方式。質問時間は、質問と答弁を合わせて50分以内。質問回数の制限はない。

質問者	掲載ページ	質問事項
吉村 範明 議員	13ページ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 子どもたちの自転車運転について ▶ 登下校時の安全確保と学校内の訓練について ▶ 理容生活衛生同業組合と高齢者の見守りについて ▶ 災害時の名簿について ▶ 外国人の就労について ▶ 外国人のゴミ出しマナーについて
吉本慎太郎 議員	13ページ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ SDGsの推進について ▶ 救急件数の増加について ▶ ふるさと納税の新たな取り組みについて ▶ 買い物弱者対策は喫緊の課題
宮西 健吉 議員	14ページ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 平成30年度補正予算、3月31日付け専決補正について ▶ 市道認定制度について ▶ お旅まつりでの曳山子供歌舞伎について
川崎 順次 議員	14ページ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ なぜ!! 市営駐車場用地を民間マンションと交換したのか!

◆住民の移動手段の確保について



竹田 良平(ただりょうへい)議員

住民の移動手段の確保および若者の声を活かしたまちづくりについて

実証実験を行う予定である。

Q 国全体で65歳以上の免許返納件数は、ここ10年で約20倍に増えている。小松市の状況は。

A 平成27年度の226人から平成30年度は359人と3年間で1.6倍となっている。

Q バス事業は赤字になっており、市の助成額は平成29年度には約1億円となっている。路線を見直す必要性は。

A 現在、16路線の運行で年間約60万人の利用があるが、採算性の著しく悪い路線やドライバー不足による路線維持が課題となっている。

Q 市内の社会福祉法人では、高齢者の移動手段として商業施設と自宅を往復するデマンド型の乗合バスがすでに導入されている。こうした事業への援助のほか、市が率先してデマンド型交通の導入を進めたいか。

A 導入にあたっては、運行形態の分類や特徴の整理、既に導入している先行地域の課題等を学び、本市の実情に応じて十分に検討を行う必要がある。年内をめどに日野自動車「デマンド型交通」の



移動が便利な小松市へ!

◆若者の声を活かしたまちづくりについて

Q 市内の高校・大学と連携し、ゼミ活動やサークル活動などを通して市の活性化へ向けたアイデア収集を行っていないか。

A まちづくりについては学生をはじめとする若者の発想や行動力は大変貴重であり、意見交換を行ってきた。今後、学生や生徒が、まち全体を学びのフィールドとしてさまざまな活動をしながらまちづくりに関わって行けるよう、大学等と連携し若者の意識調査を実施する。



岡山 晃宏(おかやまあきひろ)議員

一括質問

栗津温泉の活性化

Q 栗津温泉交流広場において今後どのようなイベントを考えているか。宿泊客に対する活用法はどのようなものがあるか。

A 広場はおつしよべ祭りのメイン会場として利用され、今年は同時開催でよさこいソーランの20周年記念大会も予定。広場を含め温泉街で風情あるライトアップを実施し、宿泊者が町なかをそぞろ歩きして楽しめる企画など加賀温泉郷と連携して実施する。

Q 昨年残念ながら廃止になった栗津温泉観光周遊バス。南部地域の観光資源を結ぶ足として、住民生活の足として必要と考えるが、経路の見直しや復活は考えか。

A 平成29年7月より実験運行を行ったが、利用者が少ないことから平成30年度で運行を廃止。今後、北陸新幹線小松開業を見据えた2次交通の利便性向上について考えていく。

◆ 高齢の方が元気に安心して暮らせるまちづくりへ

Q 今年改選される民生委員のなり手不足が問題となっている。

負担の軽減策はどのようなものがあるか。

A 昨年、町内会向けに導入済み新たに民生委員、主任児童委員等に7月上旬に導入。災害発生時の連絡や簡易な事務連絡等に活用いただき、事務の効率化で負担軽減を図っていく。

Q いきいきシニア率アップに向けて、いきいきサロン等の拡大・発展が必要と考えるが、補助金等の増額は考えか。

A 今年度、健康寿命に向けた施策として老人クラブ補助金にインセンティブ制度を創設。フレイル予防・介護予防を一体的に推進していく。

Q 緊急時、すぐに指定避難所に行けない高齢者のための一時避難所について、備品の補助など市としてどのような取り組みをしているか。

A 今年度よりはつらつ環境整備助成金の制度の中で「あんしん・安全装備」を設け、防災関連器具に補助をしている。



東 浩一(ひがしこういち)議員

一括質問

里山エリア松東地区の活性化について

◆ 松東みどり学園と地域活性化

Q 統合での、3小学校跡地活用で、旧西尾小を活用する(仮称)サトヤマアーツセンター(仮称)まつ観音下の施設内容について。

A ミニキャンパスとして、農村振興の在り方の研究を行う大学等研究室のほか、アートの力で里山の魅力を演出するアトリエ、体験農場、地元食材を活用したカフェレストラン、食育セミナー開催、アクティビティな活用など令和3年7月ごろのオープンを予定している。

Q 小松市初の、小中義務教育一貫校としての教育方針、学習環境等についてお聞きしたい。

A 子供たちに今後求められるさまざまな力を育成していく学校を目指す。学習環境として、4つの学習スペースを設置する。

Q ジビエ処理加工施設について、販売計画、運営管理体制や6次化商品開発など、取り組み内容は。

A 運営にあたり、地域おこし協力隊、高級レストランオーナーや石川県獣医師会によりマーケット

インクを計画的に進めていく。精肉だけでなくミンチ加工、ハム等をプランニング。販売ルートは、企業や道の駅、ふるさと納税の返礼品をプランニングしている。

◆ 農業・林業のスマート化

Q 農林業には、先端技術(AI)(ICT)(IoT)などの活用取り組みは急務だが、現状と今後の展望は。

A スマート農業の積極的な推進や、間伐材チップ燃料の利用拡大、林業機械の導入支援などを行う。

◆ 小松市の日本遺産について

Q 日本遺産小松の石文化を、里山エリア全体の連動強化を行い、先日オープンした(セラポクタ二)連携など観光資源で地域活性化に取り組む展望は。

A 九谷焼ブランド力の向上と、販路拡大を目的にして、kutanisimの事業を開始。今年度は能美、小松連携で9〜10月ごろに開催予定である。